

デクセリアルズ株式会社

ESG 説明会 質疑応答要旨

開催日	2019年12月20日（金）
当社出席者	<p>代表取締役 専務執行役員 佐竹 俊哉</p> <p>上席執行役員 CFO 総合企画部門長 左奈田 直幸</p> <p>上席執行役員 総務・人事部門長 石黒 聡</p>

*このメモは、ESG説明会での主な質疑応答内容をまとめたものです。投資家の皆様の理解促進のために一部加筆修正を行っております。

【主な質疑応答】

<ガバナンスへの取り組みについて>

Q1	ガバナンスが先進的な会社であっても、品質や会計等で問題が起きているが、他社事例を客観的に分析してフィードバックを行っているのか
A1	（佐竹）社内の情報エスカレーションは制度的にも運用的にもしっかりできており、モニタリングについては取締役会だけでなく、社外取締役だけの会合でも適宜確認、議論していただいている。社内のコンプライアンス意識は高いと思うが、継続して意識向上や制度上の機能強化に取り組んでいく
Q2	社外取締役が過半だが、社外取締役が議案に反対した事例はあるか
A2	（佐竹）オープンな議論を行うというのが基本的な考え方なので、取締役会の場合だけでなく、それ以外の場でも議論を積み重ねている。取締役会での賛否のみでなく透明性を意識して、曖昧にせず結論が出るまで議論をしている

<新しい価値創造への取り組みについて>

Q3	技術系の人材に営業マインドをどのように浸透させているか
A3	(左奈田) 当社ではエンジニアが営業に同行して直接話をし、顧客が何を求めているかを 実地で身につけるスタイルが根付いている。営業という切り口では、単なる製品ではない技 術のマーケティングにどうシフトしていくかに力を入れている。
Q4	ビジネスモデルについて、光学弾性樹脂を例とするとプロセス技術を訴求しきれなかったの ではないか。自動車向けでも同じようなことが起きないか
A4	(左奈田) 光学弾性樹脂については顧客の課題に対して十分な深掘りができず、反省し ている。これを反省材料にした上で、自動車向けで顧客の要望・課題を反映した製品開発 につなげていくことが大切と考えている

<環境への取り組みについて>

Q5	「2030 年度の環境目標達成することで収益が上がる」メカニズムとはどのようなものか
A5	(石黒) 例えば生産性向上の取り組みを通じ、歩留まりの向上により材料となる化学物 質の使用量減少といったコスト削減効果による収益貢献などの形を考えている
Q6	「2030 年度で CO ₂ 排出量 2013 年度比で 50%削減」としているが、原単位ではなく総 量で設定しているのはなぜか
A6	(石黒) CO ₂ 削減基準については色々な考え方があるが、使用するエネルギー量の絶対 量を減らして、本質的に環境負荷を減らしていこうという考えで総量での設定にしている
Q7	自社の生産活動だけでなく、サプライチェーン全体の中での排出量や廃棄物削減というこ とは考えていないのか
A7	(石黒) サプライチェーンの中での全体の削減の評価は難しいが、例えば当社の低温接 合 ACF は顧客側でのエネルギー消費を抑える効果もあり、今後は視野を広げて検討して いきたい

以上